

私の道



三井住友建設株式会社
技術本部 第一技術部 土木構造技術グループ

高岡 怜

中学受験を経験して中高一貫の女子校へ通っていた私は、周りに建築・土木関係者がいなかったこともあり、大学進学までは土木と無縁の生活を送っていた。

小・中学生のころから算数・数学が好きだったため、将来は理系の道に進むことを漠然と考えていた。そんな私が土木を目指し始めたのは、高校3年生の頃。土木技術が生活環境を支えていることに魅力を感じ、土木工学科を志望した。

大学進学後は力学に数学的な楽しさを覚え、研究室はコンクリート構造設計研究室を選択。そこで、私は橋と出会った。人々の生活を支え、さらにシンボルにもなる綺麗な橋に魅力を感じた。大学3年生の頃、コンサルでインターンシップを経験した。ここでの経験が非常に大きかったため、橋の道へ進むことを考え始め、就職先は橋に強い会社を自然と選んでいた。

こうして私は、女子校から土木の世

界へ入ってきたのだ。

社会人になってからは、研修を含めて約1年間、現場を経験した。本配属先は神奈川県にある高速道路の高架橋上部工工事。場所打ち施工の橋を担当した。良いものをつくらうと一丸となつている現場の中に入り、毎日測量をしていた。徐々にきれいなコンクリートの橋の形が見えてきた時の感動を今でも覚えている。どんなに大きなものでも、細かく正確な作業の積み重ねでできていること、そして人がつくっていることを間近で実感した。

その後は、土木設計部でPC橋梁上部工の設計を3物件担当した。大阪の芥川橋、埼玉の桶川高架橋、北海道の天神橋と、世界初の技術であるバタフライウェブを取り入れた橋梁などの、規模の大きな橋の設計に携わることができた。床版・主桁・耐震設計など、3物件を通して一通りの設計業務を経験した。部材寸法・補強鉄筋・PC鋼材量などを設計し、それらが全て反映された図面を作成する。それが現場に渡り、人々の生活に欠かせない大きな構造物になるのだ。そう考えると、自分の仕事にやりがいを感じる。

良い環境で仕事をするために、最近では定期的な運動を心掛けている。仕事帰りにテニスや、休日にホットヨガへ通うなどして、意識して体を動か

すことでもスツキリさせている。その他、乾燥するオフィスでは白湯や温かいお茶を飲むようにし、業務で夜遅くなる時には会社でフルーツや野菜を食べ、寝る前に夕飯をとらないなど、睡眠時間が短い中で内面の健康を維持するための努力はしている。

入社6年目、現在は技術本部に所属している。橋梁の設計や今までの経験から自分の考えを増やし、それを発揮することで将来、新しい技術の開発に貢献できるような技術者になることが私の目標だ。

最近、内閣府主催の「理工チャレンジ(リコチャレ)」のイベントとして小・中・高・大の女子学生を対象に現場見学会が大阪の武庫川橋で開催され、女性技術者として現場の説明・引率などをさせて頂くという経験に恵まれた。皆楽しそうに写真を撮っていたのが印象的だった。また、技術者に女性がいることにも驚いていた様子で、女性技術者という存在を知ってもらう良い機会になったと思う。

今の世の中は大きく変わっている。建設業界では活躍している女性の数は多くないが、ロールモデルになろうと思っている女性技術者は増えている。女性が活躍できる環境となることで、男性・女性問わず全ての方が働きやすくなるのではないかと私は考える。

JCI講演



リコチャレ集合写真



芥川橋



1年日本配属先現場全景

現在は建設業も素敵なCMがテレビで流れ、誰もが一度は目にしているだろう。これからは、子供たちに憧れてもらえる職業になつてほしい。そのため、まずは建設業を指す後輩の道しるべとなる実績を残し、お手本となるよう、しっかりと歩んでゆきたい。

本配属先現場集合写真

#007 仕事場拝見

やりがいある職場で
ベストを尽くす



株式会社日本ピーエス
企画経理部 経理課
岡 武道

仕事場は福井県敦賀市

私の住んでいる町は福井県敦賀市、北陸地方の小都市であります。全国にもまずまず名前が知られているのではないのでしょうか。

昨年春の選抜高校野球で全国優勝を果たした「敦賀気比高校」、日本三大松原の一つ「気比の松原」、日本三大木造大鳥居の一つ「気比神宮」などが有名です。自然豊かで風光明媚な住みやすい街です。

そこに本社を置く会社の企画経理部で私は働いています。

企画経理部の仕事

私はいわゆる「事務系」の社員です。今回は「技術系」ではない立場から、仕事場を紹介します。

私が所属する「企画経理部」には、大きく分けると①企画、②予算管理、③財務、④会計の四つの仕事があります。

①企画は、計画立案や分析をする

仕事、②予算管理は、予算の達成を管理する仕事、③財務は、資金繰りをする仕事、④会計は、会社の数字を集計・報告する仕事です。

総務部門と並び、縁の下の力持ち的な部署であり、成果を誇れる機会はありません。

しかし、会社の基礎を支える大切な仕事だと自負し、日々取り組んでいます。

とはいうものの、「技術系」、特に現場従事者の方がうらやましく思える時もあります。それは、2年前の現場研修の中で強く感じました。

現場研修で感じたこと

平成26年1月に、入社20年目にして初めて長期の現場研修の時でした。研修先は、大分県佐伯市で、東九州自動車道の受注金額約15億円の現場でした。

そこで私が感じたことは「責任感」と「やりがい」でした。

まず、現場従事者の方は、自分が会社の代表であるという責任感を強く待たれていると感じました。

同時に、自然を相手に「ものづくり」をすることの充実感を感じました。型枠脱型後の暖かいコンクリート、冬の朝の寒さと川霧の美しさなど、事務所で働いている時では味わえない感覚がありました。

わずかな期間でしたので竣工には立ち会えませんでした。笑顔でいっぱい閉合式の写真を見て、自分のことのように嬉しく感じました。

業務改革推進室(兼務)

私は、兼務で業務改革推進室という部署にも属しています。平成26年10月より発足した部署で、若い社員が安心して将来を託せる会社、達成感・充実感を得ることが出来る職場を目指し、全社的なプロジェクト活動をおこなっています。

二つの部署の両立は大変ですが、プロジェクトに対し「ものづくり」と同じ気持ちを持ち、「やりがい」を感じながら日々取り組んでいます。

ベストを尽くす

この寄稿では、建設業・PC業界の事務系社員はどのようなモチベーションで仕事をしているのか?を書きたかったので、うまく伝えられた自信がありません。

そこで、土光敏夫さんが話され、私が心に留めている言葉をお伝えします。

「やりがい、働きがいは、やってみればじめて出てくる。やりもしない、働きもしないで、どうしてそのような喜びが得られるだろうか。生きがいにしてもそうだ。精一杯生きる努力をして、はじめて生きる喜びを知るので。」

私は、どんな仕事にもやりがいがあると考えます。そして、与えられた場所でベストを尽くす、これが仕事だと思えます。

私は、私の仕事場で今日もベストを尽くします。

気比神宮



番匠川橋全景



気比の松原



番匠川橋閉合式